



発行所
社団法人
神奈川県造園業協会
横浜市中区常盤町2-10
仲光ビル2階〒231-0014
電話 (045) 662-8793
662-1767
FAX (045) 662-4381
年間購読料 3,150円
(郵送料を含む)
ただし会員の購読料は会費に含まれています。



<http://www.kanagawazoen.or.jp>

年頭のあいさつ

(社)神奈川県造園業協会会長
岸 本 和 好



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、新たな希望と抱負を胸に新年を迎えられたことと存じます。年頭に当たり、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、東日本大震災により未曾有の被害がもたらされました。地震と津波の被害を受けた東京電力福島



「災害が多いこと」を挙げたそうです。怪訝な顔をする大統領に大平氏は、「日本人は耐えて、克服し、災害前よりは日本を良くするんだという気概を持ってきて。この力こそが復興の原動力だ」と語ったそうです。関東大震災や敗戦時の焼野原、そして阪神大震災からも立派に

第一原子力発電所では、放射性物質が大量に外へ漏れるという重大な原子力事故に発展いたしました。これにより東北地方と関東地方では、深刻な電力不足に陥り、あらゆる産業に大きな混乱をまねきました。そして、今なお自宅を離れ、避難生活を送らなければならぬ多くの方々がいらつしやることを思うと心が痛みます。

また、昨年は地震だけでなく、大雨や台風により、日本各地が災害にみまわれました。

かつて、時の外務大臣であった大平正芳氏がハワイトハウスを訪れた際、ケネディ大統領から、「日本が敗戦から早く復興できた秘密は何か」と質問された時、

「災害が多いこと」を挙げたそうです。怪訝な顔をする大統領に大平氏は、「日本人は耐えて、克服し、災害前よりは日本を良くするんだという気概を持ってきて。この力こそが復興の原動力だ」と語ったそうです。関東大震災や敗戦時の焼野原、そして阪神大震災からも立派に

立ち直ってまいりました。日本人の力を信じて、被災地の一日も早い復興を願わずにはいられません。

震災による影響は計り知れないものがあり、造園業を取り巻く環境も一段と厳しいものがあります。

私共は多年にわたる経験と、これまで蓄積した技術をもって二十一世紀における生活環境整備に参加することが、造園建設業に携わる者の社会的使命であると認識しており、造園建設から維持・育成・管理に至るまでの総合的な技術の向上と、体制の整備について不

断の努力を続け、緑あふれる豊かな街づくりの実現に向けて取り組んでまいり所存であります。

また、造園業界が持続的に発展していくためには、時代を担う人材の養成と技能・技術の向上と継承が急務であり、部会・委員会一丸となって取り組んでまいります。

更に、協会といたしましては、景気・環境対策として、また計画的な社会資本の整備保全や災害への対応のためにも、防災公園の設置等、緑化関連公共事業予算の確保増加を具に要望しており、その実現に向かっ



ともに築く

いのち輝く

マグネット神奈川

神奈川県知事

黒 岩 祐 治

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様、それぞれ新たな抱負を胸に新年をお迎えになつたことと存じます。

私も、知事に就任して初めての正月を迎え、より良い県政の実現に向けて決意を新たにしているところで

す。

中、私は「いのち輝くマグネット神奈川」を旗印に掲げ、県政をスタートさせました。

いのちを守るために、また、地域のマグネット力を高めるために大切なものは何か、県としてなすべきことは何かを、行政分野ごとの縦割りの発想を超えて考え、総力を挙げて取り組むことが大切だと、私は思っています。

いのちを守る取り組みの一つとして、現在、神奈川県では、都道府県では全国で初めてとなる「医療のグランドデザイン」を策定しています。その検討作業を通じて、患者の視点に立った「透明性の高い、開かれた医療」「地域に根ざした医療」の実現を目指しています。

しかし、「いのち輝く」とは、医療体制を充実させるだけではなく、経済や農業、環境、教育など、ジャンルを超えて生活の質の向上を目指していることとする考え方です。「ここに生まれよかつた」と生きている喜びを実感できる神奈川を実現することが私の目標です。

そこで、医療の規制緩和や、西洋医学と東洋医学の連携などを進め、神奈川で「日本一の医療体制」の確立を目指すとともに、地産地消や食育などを通じた医・食・農の連携を図り、病気になるない取り組みを進めてまいります。

また、私は、就任以来「神奈川からエネルギー革命を起こそう」と訴え続けてきたところであり、昨年9月には「かながわスマートエネルギー構想」をお示しました。これは、再生可能エネルギーの普及等を促進して、原子力への過度の依存をやめ、地域が中心となつた分散型のエネルギー体系の構築を目指そうというものです。

昨年12月には、戸建て住宅に安価に太陽光発電設備を設置するための仕組みがスタートしました。今後も、民間資金の導入も図りながら、工場や公共施設の屋根に太陽光発電設備を設置する「屋根貸し方式」や、大規模な遊休地等に設置する「メガソーラー」の誘致などを進めてまいります。

このような取り組みを通じて、関連産業の集積や技術の高度化を図り、雇用の促進、地域経済の活性化にもつなげていきたいと考えています。

私のもう一つのキーワードは「マグネット」です。神奈川には、多彩な個性を持つ地域がたくさんあります。私は、横浜や箱根に負

平成24年(2012年) 神奈川県造園人 賀詞交換会開催のご案内

恒例の神奈川県造園人賀詞交換会は、下記のとおり予定しておりますので、ご案内いたします。

記

- 1 日時 平成24年1月10日(火) 午後6時
- 1 場所 ロイヤルホールヨコハマ
- 1 会費 男性6,000円 女性3,000円 TEL 045-641-1122

けない新たな観光拠点をつくりたいと考えています。そのために、情熱を持って主体的に魅力づくりに取り組んでいる地域を積極的に支援してまいります。

また、地域間の交流連携の促進などが期待される、さがみ縦貫道路やリニア中央新幹線の県内駅の設置、東海道新幹線新駅の誘致などの交通網の整備を進めることで、県全体の活性化につなげていきたいと考えています。

これらの取り組みにより、国内外の多くの人を引き付けるマグネット力ある地域を目指します。

「いのち」と「マグネット」を軸に、県が今後どこに重点をおいて政策を進めようとしているのかを分かりやすい形で皆様にお示しするため、現在、県では新たな総合計画の策定を進めています。

今後も、県民の皆様との対話や、各分野の有識者の提言も踏まえながら、議会の皆様と議論し、県政運営に取り組みしていきたいと考えております。皆様には引き続きお力添えをお願いいたします。

平成24年(2012年) 謹賀新年

社団法人
神奈川県
造園業協会役員一同



平成24年(2012年) 謹賀新年

- 田澤 幸作 相談役
- 下田 勇 相談役
- 鈴木 一松 相談役
- 岸本 和好 会長
- 渡邊 宣和 副会長
- 高橋 克明 副会長
- 小山 俊一 副会長
- 石川 龍二 副会長
- 瀧川 隆雄 理事
- 川原 正行 理事
- 今西 稔 理事
- 倉本 澄夫 理事
- 今泉 健寿 理事
- 小川 名真 理事
- 田野 井茂 理事
- 高橋 更一 理事
- 生駒 隆一 理事
- 長谷川 寿雄 理事
- 大胡 周一郎 理事
- 細野 仁 理事
- 笠原 三貴也 理事
- 目代 久典 理事
- 古川 香 理事
- 木村 義広 理事
- 原 茂弘 理事
- 富田 改 理事
- 甘利 憲一 理事
- 足立 原哲男 理事
- 松井 徹 専務理事
- 川田 秀一 監事
- 新倉 治 監事

「みどり行政に関する要望書」

神奈川県及び出先機関へ提出

「景気・環境対策として、グリーンニューデール施策による緑化関連事業や防災公園等災害防止への集中投資による内需拡大」
「都市における緑化」の推進等を

(社)神奈川県造園業協会と(社)日本造園建設業協会神奈川支部協同で、十月十三日に神奈川県古尾谷副知事・高村県土整備局長・石黒環境農政局長を始めとする幹部職員に対し平成二十四年度に向け要望書を提出し、次の六項目について要望した。

①景気・環境対策として、また、計画的な社会資本の整備保全や災害への対応のためにも防災公園の設置等緑化関連

公共事業の予算の確保・増加と受注機会の確保を②都市公園の整備や既存都市公園の再整備、緑地の保全、緑化の推進と三浦半島地域への国営公園の誘致活動の積極的な推進を③公園・緑地及び道路、河川、港湾住宅施設等のうち造園に関する整備及び維持工事は地域の実情に応じて分離し造園専門業者に発注を、また発注にあたっては公共工事の品質確保を図るため工事実績、造園に関する各種資

格所有者の技術力等の評価を④社団法人日本造園建設業協会認定の街路樹剪定士の積極的活用を⑤校庭及び養護施設の芝生化の推進を⑥不正行為の防止と不良不適業者を排除するため業務実態調査の強化と調査結果の入札制度への反映について、造園業界の大変厳しい現状をふまえて要望事項の実現に向けて強く申し入れた。

の指定は環境農政局の所管であり、防風林・防砂林の整備は県土整備局であるので、県土整備局と連携を図り二人三脚で進めて行きたい。

三、鎌倉の世界遺産については、建長寺や円覚寺だけが評価されているのではなく周辺を構成するみどりがあつて全体として評価されているので今後も緑行政を進めて行きたい。

また、災害協定の関係では今回の台風15号の被害で街路樹や座間の谷戸山公園の樹木が大きな被害を受けたことや東日本震災の教訓として公園の防災機能が見直されているのでその点を踏まえて指定管理者や既存の災害協定締結団体等難しい面があるが災害協定について検討して行く旨浅葉環境都市整備部長から回答があつた。

六、その他 福島第一原子力発電所の放射能の影響調査を行う等について論議された。



古尾谷副知事に対する要望

古尾谷副知事 一、逗子市の米軍跡地については、国有地として返還後防災機能も含めた都市公園として整備する構想があり、国・市町村と連携を図り進めて行きたい。

石黒環境農政局長 一、これからは緑の量を増やすだけでなく、質を充実することが大切であり景観に造詣の深くかつ生き物を扱う造園専門業者と連携をとり政策を進めて行きたいのでご協力をお願いいたします。

二、東日本震災の教訓として防風林・防砂林の整備が重要であり、保安林

三、要望項目③について平成二十一年度は、公共工事として六〇件出している。今後も努力する。工事の発注には災害協定などの社会貢献や技術の

四、要望項目④について二十一年度から実施しているが街並みや景観を優れた箇所を街路樹の整備に力を入れており、二十三年度は県内十五箇所の整備を予定している。

五、要望項目⑥について

これを踏まえて十月十九・二十日の二日間にわたり横浜川崎治水事務所・各土木事務所等県土整備局十二箇所、自然環境保全センター、県央地域農政総合センター等環境農政局八箇所、企業庁水道局寒川浄水場等二十一箇所の出先機関に要望を行った。



石黒環境農政局長に対する要望



高村県土整備局長に対する要望

チエンソー取扱特別教育講習会開催

九月十四・十六日の三日間公園緑地部会と教育研修委員会共催でチエンソー取扱の講習会を開催しました。場所は当協会賛助会員のキャタピラー教習所(株)相模教習センターで行われ参加者は四十八名でした。講習は学科と実技に分かれ実技のほうは大径木の伐採などが体験でき、講師の先生方の熱意あふれる講義を受け大変有意義な講習会となりました。



第三十二回「よこはま技能まつり」に参加

第三十二回「よこはま技能まつり」が九月十一日(日)に横浜公園で開催され、神造協をはじめ三十二の市内の技能職団体が参加し、日頃から磨いているものづくりの職人技を発表・展示し、横浜の技能の素晴らしさを披露し、訪れた人々の賞賛を受けていた。

神造協では、庭園部会・横浜マイスターを中心に平成二十二年度に表彰を受けた横浜市技能功労者・優秀技能者が協力して出展した。

特に今年度は、(有)岩間造園の岩間一夫氏による獅子おどしを作品展示し、造園技能の一端を披露し多くの方から好評を受けた。

また、①造園・園芸相談 ②横浜マイスター・会員による作品ミニチュア・庭園写真③一・二級技能検定モデル写真や技能検定講習会・実技試験風景写真展示④竹の花器作成・花のタネ無料配布⑤三十周年記念に作成した会員の庭園・造園



獅子おどし

作品のCD紹介⑥垣根の結び方実演を行った。

特に、四つ目垣の縄の結び方実演には多くの方が関心を示し、関係者の指導を受けながら和気あいあいと取り組んでいた。

技能まつり等の一つ一つの取組みが伝統的技術の承継と広がりにつながればと思います。



第十一回 親睦ゴルフ 県大会の開催



協会の数少ない親睦会として第十一回目を迎えた今年のゴルフ大会は、本厚木カンツリークラブで行なわれました。参加者七十四名、当日は温かい穏やかな良いお天気の中気持ちよくプレーを楽しんでいました。

グリーンが速く皆様パットに苦しんでおりスコアも

全体的に厳しいものがありました。

優勝は港北支部青木治氏・準優勝は最年長七十九歳の緑支部男全蔵氏・第三位は鶴見支部賛助会員の磯ヶ谷哲氏が入賞し、栄えあるベストグロス賞はグロス七十九で川崎北支部藤田浩進氏が受賞いたしました。

今年度は、持田神奈川県議会議長、中村・牧島みどり議員連盟顧問、嶋村幹事長、国松事務局長、桐生・横山・山口常任理事にご参加いただき有難う御座いました。

細野さんをお願いした沢山の花鉢の香りがパーティー会場を埋め尽くし、また、今回も豪華賞品が多数授与され、華やかな秋の1日となりました。

どうぞまた腕を磨いて来年に挑戦して頂きたいと思えます。幹事の皆様有難うございました。

病害虫防除講習会を開催のご案内

農業の適正使用と安全管理・人の健康や環境リスク低減に配慮した樹木の防除技術について

当協会と神奈川県農業技術センター病害虫防除部・神奈川県植木連合会と共催で第二回病害虫防除講習会を左記のとおり実施致しますのでご参加下さいませようご案内致します。

社団法人神奈川県造園業協会労働保険事務組合総会開催

(社)神奈川県造園業協会労働保険事務組合総会が11月9日ホテル横浜ガーデンに於いて出席者12名委任状35通のもと開催されました。

松井事務局長の司会で始まり長谷川理事が開会の言葉述べ、井上会長が挨拶されました。

会則第15条の3により、井上会長が議長に選出され、第1号議案平成22年度事業報告、第2号議案平成22年度決算報告及び監査報告が審議され、満場一致で承認されました。

続いて、第3号議案平成23年度事業計画(案)につ

いて、第4号議案平成23年度収支予算(案)について審議され、満場一致で承認されました。

最後に第5号議案任期満了に伴う役員改選について審議され、



会長 井上衛様
副会長 岸本和好様
副会長 岸純一様
理事 長谷川寿雄様
理事 小川時男様
理事 鳥海務様
理事 吉田志郎様
理事 小山俊一様

全員留任でお願いすることが承認されました。今後とも宜しくお願い致します。

以上で本日予定された議事の審議を終了し、総会は滞りなく閉会しました。

総会終了後、懇親会が開かれ、皆様、親睦を深められました。

このところ労災事故が多発しております。無事故で安心な職場でありますよう、ご協力宜しくお願い致します。

第二回講習会

日時：平成二十四年 一月二十七日(金) 一時三十分

会場：神奈川県農業技術センター多目的ホール
定員：五十名
この講習会は、農業散布時の人に対する健康や周辺

住民・環境への安全性確保の大切さについて発注する側の行政と受注する造園関係事業所が共通認識を共有し、円滑な病害虫防除を図ること目的とした重要な講習会で出席者には、「修了証」が発行されます。

希望者はFAXにて氏名・住所・電話番号・記載の上事務局に申し込み下さい。(申込用紙有り)



公園緑地部会における「校庭・園庭の芝生化推進活動」について

公園緑地部会副会長 野村 直樹

神奈川県造園業協会並びに日本造園建設業協会神奈川県支部は以前より「みどり行政に関する要望書」の中で、「校庭及び養護施設の芝生化」の普及や適正な維持管理ができるための助成措置などをお願いして参りました。

公園緑地部会では、県民の皆さんに芝生化の効果を知っていただき、更なる普及を目指すための活動を開始しました。

まず第一に私たち会員の一人一人が今一度「何故芝生化することが良いのか」「芝生化する為のハード・ソフトスキルは何なのか」「芝生を維持する為にはどんな事に留意しなければならぬのか」

一つ一つを同じ仲間同志が勉強し、お互いの技術力向上・芝生への理解力向上を図る為のグローバルトレーニングと場をつくる事が肝要であると考えた訳です。

活動の第一弾として、平成 23 年 1 月 27 日に日産スタジアムのご協力を頂き、「校庭芝生化の勉強会」を開催致しました。40 数名のご参加を頂き、山口緑管理課



長様、グリーンキーパーの柴田様より、「芝生の管理」「芝生化の課題」等についてご講演を頂き、また、2002 年ワールドカップ前哨戦のコンフェデレーションズカップにおいて世界一のピッチと称賛されたグラウンドを見学させて頂きました。

私たちもそのピッチに立った瞬間、感動したところであり、その芝生の管理において芝生を育てる事が如何に大変で難しいかを聞かせて頂いたわけです。参加者の多くの方々から

も、この様な研修会を是非継続して貰いたい、芝生化の意義・効果またその為の課題、提言についても、もっと勉強したいと、アンケートを通じてご意見を頂きました。

そんな折、横浜市南区のお三の宮日枝幼稚園が、園庭の芝生化を勉強しているとの会員の方よりお話を頂き、公園緑地部会として何ができるのか、検討いたしました。

部会として日枝幼稚園様と、打ち合わせをさせて頂く中で園長先生の「芝生の上で子どもたちを思いっきり遊ばせたい」「寝転ばせてあげたい」という熱い想いがひしひしと私たちに伝わってきました。

そして、そのために園長先生も一生懸命ポット方式による芝生化の勉強をされ

ているとのことでした。それならば、この園庭の芝生化を公園緑地部会が全面協力し、園や御父兄の皆さん、園児さんたちと一緒に芝生化し、みどりの園庭をつくらう、そして私たちの勉強の場とさせて頂いて頂きたいわけです。

公園緑地部会の経営研修委員会、技術研修委員会や校庭芝生化を勉強したい方々に声掛けをさせて頂いた

た、化学性（PH や養分など）、日照時間や園児数など芝に与えるストレス予測など、今の私達に出来る限りの調査を行いました。その結果を反映させ、土壌改良の種類や方法などを決定した訳です。

また、幼稚園の行事予定が多く詰まっている中でポット苗づくり、植えつけ時期が決められていました。

「芝生は

生きものであること

環境が大事であること

慈しむ気持ちが大切であること

管理をしてあげることが大切であり重要であること

を知ってもらいたい」

これを解ってもらう為にはまず園児たちがポット苗をつくり、一鉢でも家で育てて、そのポット苗を園庭

しばふのおじさん

いつも しばふ そだててくれて ありがとうごさいました。おうちで あかちゃん のしばふ つくるとき、たのしかったし、うれしかったです。だいじにそだてようとおもいました。あっちやいあかちゃん のしばふが ベッドみたいに ふわふわで、あったかくて、きもちいい、

おとなの しばふは ちがいます。ちがいのや「ころころ」がたけ、たくさんみどりいろになつて、つちよりいいです。きもちがいいです。しばふのおじさんがこうじをしてくれたり、みずをまわってくれたりしたから、しばふが げんきになりました。しばふのうえでは、ねこが ぴんぴん グログロあそびをして、たくさんあそびたいです。それから、しばふは フワフワ

しているから あしをついても けがをしそうではないので、ちょっとあそびたいときも してみたいです。じれからも、みんなをいっしょに ちからを あつめて げんきに そだてます。おじさんも おげんきで、がんばってください。これからも、しばふで みんなを げんきにさせて ください。ふあふあ の しばふ、ありがとうごさいました。へりせり 23 ねん 11 がつ 28 にち おさんの みちひろようちえんの みんなより



に植付け、除草や施肥、灌水、そして石拾いをする様子が話されました。

経営研修委員会、技術研修委員会はそれぞれ分担し、工程表、施工計画書、予算書、また、維持管理マニュアルなどを作成し、準備をすすめて参りました。

あいにくの空模様でしたが、園児の快活さがとても印象的でした。

緑地部会からの参加者約20名。

7月22日(金)

夏休みのこの日、年小さんから年中、年長組まで総ての園児そして父兄によるポット苗の植付けをしました。

〔概要〕

芝生化全体面積 342㎡

ポット苗方式による植栽 192㎡(ポット苗間隔20cm約2500ポット)

播芝方式による植栽 130㎡(200g/㎡)

筋芝方式による植栽 20㎡(1/10筋芝)

芝種 ティフトン419

工程 6月17日(金)

年長組園児の皆さんや先生とポット苗つくりをしました。

かわいいなえ」といいながら、植付け、大切に育ててきて、約3ヶ月、待ちこがれたオープンングです。歓声のあと、園児や父兄、先生から多くの感謝の言葉を頂き、また園児から手作りのメダルや賞状、歌をプレゼントされました。

式典終了後、園児たちは園庭一面の芝生の上で走り回ったり、寝転んだり、思い思いに触れ遊んでいました。

私達、公園緑地部会が取り組んだお三の宮日枝幼稚園の園庭芝生化の第一段階は無事終了しました。

しかし、真の芝生化はこれから維持管理にかかっている訳であり、今後、公園緑地部会はこのお三の宮日枝幼稚園の園庭芝生化の維持に協力して参ります。

また、この実績を踏まえ、一箇所でも多くの園庭を芝生化していきたいと考えています。

この芝生化推進事業は公園緑地部会として、また協会としても素晴らしい効果をもたらすものと確信しています。県土に緑を増やし、ヒートアイランド現象の緩和に寄与し、そして、何より緑のもたらす精神的な効用と効果、みどりを通して地域や関係者のコミュニケーションの活性を図ってまいります。

私たち自身ノウハウ実績が出来たこと、また、諸官庁からも支援の要請を頂きました。

私たちは公園緑地部会として、プロジェクトチームを立ち上げ、支援要請に応える他、一つでも多くの園庭・校庭を増やし、一人でも多くの県民の皆さんに、園庭・校庭の芝生化の素晴らしさ、必要性、重要性をご理解いただき、そして芝生のプロとして、地域の芝生化のリーダー作りを目指し、業界の活性化につなげて行きたいと思っています。

街路樹剪定士

認定研修会

日造協神奈川県支部

昨年同様平成二十三年度も横浜市金沢区西柴・寺前に於いて座学・実技研修と試験が行なわれた。

受講者は、日造協会員二十名・神造協会員五十六名・横浜市一名、聴講員五名・横浜市・秦野市・厚木市各一名の八十五名であった。

借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、街路樹は、都市空間に自然の潤いを与え、美しい景観が人々の心を癒す、そうした効果はもろんのこと、今年の夏のような猛暑の際には、歩行者に日陰を提供したり、さらには、騒音の低減や、二酸化炭素の削減、都市のヒートアイランド現象の緩和など、様々な効果を持つ、大変重要な道路の構成要素となっております。そこで、

先日の台風十五号通過の際には、本県は、観測史上最大の強風に見舞われ、県内各地で街路樹の倒壊や落枝などがありました。皆様にはそれぞれの持ち場で、撤去作業などに携わっていただきました。この場をお

県では「かながわのみちづくり計画」の「安全で快適なみち空間の整備」の中に、街路樹の整備をしっかりと位置づけ、苦しい財政状況ではあります。着実に事業を推進しているところでございます。

この制度は、樹木の整理・生態や街路樹に関する専門知識と、伝統的な職人芸とも言える技能を持ったスペシャリストの養成を目的としたもので、県としても、大変意識のある取組みと評価をしております。

そこで、平成二十年度から、街路樹が街のシンボルとして認知されてい



トウカエデ



コブシ



元の高い関心や要望がある地域などを「街路樹剪定士/モデル地区」として選定して、街路樹剪定士の技術を活用させていただいており、今年度は、15箇所を実施する予定でございます。

結びに、2日間の研修会が実りの多いものとなつて、街路樹により、美しく、潤いのある道路空間が形成されますことを祈願いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

研修会は、十月二十五日(二十六日の2日間)で座学研修と資格認定試験が実施されました。

一日目は、街路樹に関する基本的事項、剪定、病害虫、植栽基盤整備等を講義。資格認定試験は、学科と実技の試験を実施。実技試験ではトウカエデとコブシの2樹種を対象に行い、協会の主任・支部判定員らが安全用具や道具の使用法、適確な選定技術、出来栄などを厳しくチェックした。

街路樹剪定士認定研修会は平成十一年度から毎年実施、専門的剪定技術には、県・市から高い評価を受けており、一層の活用を要望しているところである。

なお、この度の研修会の設営にあたりましては日造協神奈川県支部技術委員会、横浜市道路施設課、金沢土木事務所、横浜市金沢産業振興センターの皆様のご協力とご支援を頂き有難うございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

そして、このように、大切な街路樹を、多くの県民の皆さんの参加により、守り育てていくことを目的として、昨年度、「かながわ街路樹パートナー制度」を創設いたしました。

この制度は、県民や企業などの皆さんに、街路樹の維持管理に役立てるための寄附をお願いし、賛同をいただいた方には、「かながわ街路樹パートナー」として、お名前やメッセージなどを記入した「樹木名」や「表示板」を設置するものがございます。今年度も引き続き、実施する予定です。

一方、「(株)日本造園建設業協会」におかれましては、平成十一年に「街路樹剪定士認定制度」を創設されました。

三陸の今 (二)

教育研修委員 荒川昭男

菜の花

まだまだ厳しい状況が続く三陸の今を伝えます。

初めてボランティアに行つた初夏の三陸には、津浪を受けて枯れた樹木とは対照的に、鈴蘭やアヤマが何事も無かつたように群れています。季節が少し流れ枯梗、水蓮、秋の気配と共に秋桜や秋明菊が、津浪や火災で建物が焼失した町

のあちらこちらに、自然な感じで顔をのぞかせていました。草花の生命力に改めて驚かされましたが、主に見てもらえない花々はどこか寂しげでした。宮古市内では、町のいたる所に山積みされていた土嚢袋が撤去され、町中の景観が変わっていました。以前の日常風景をとり戻すつあるようです。それにしても、側溝から土嚢袋に詰められた強臭まみれの土砂の量は、一体どのくらいあつたのでしょうか。

山田湾では、カキやホタテの養殖筏の数が増え、海の息吹のようなものを感じられるようになりました。各漁港に浮かぶ船の数も

少しづつ増えているようです。船のない漁港は寂びすぎました。

以前では見かけることが無かつた海鳥の姿が、それも群れとなつて各入江に戻つてきていました。カモメ達は海が動き始めるのを何処で待っていたのでしょうか。

やはり港の風景には、船とカモメが欠かせないようです。大槌町の市にはまだこの様な建物が残されており、全ての解体が終了するのはいつのことか



ドロドロとした汚水の中に残されたガレキの撤去作業。悪臭がなければ造作のない仕事なのだが



大槌町の市内にはまだこの様な建物が残されており、全ての解体が終了するのはいつのことか



大槌川の河川敷。津浪は土手を越え住宅を襲つた。ガレキを撤去した後、菜の花畑にする整地作業



津浪のあとの火災で近所でも評判の赤松は、黒ずんだ幹枝を残しそれでも松の威厳を保っていた



津浪で消えた山田湾の養殖筏。オランダ島と小島の周りに少しづつ筏が戻り湾の再興が進む



港や入江に戻ってきたカモメの群。震災後しばらく見かけなかった鳥が大群で戻ってきていた



気仙沼市外に座す大型船。解体処分とのことだが、身近で船を見ていると現実と非現実の狭間にいるよう

虹

震災の日、学校から帰宅できなかつた多くの児童たちは、寒さと恐怖のため全員がオネシヨをしたと語っていました。9月になったら、その子供達に種をまいてもらうとのこと。来春大槌川の河原が、黄色の広大な絨毯で輝くのが楽しみです。

被災地でこのような明るい話題や光景に接することは、実に嬉しいことです。肩を落とした後姿よりも、笑顔の方が見えていて元

気が出ます。しかし被災地の現実はまだまだ筆舌に尽くしがた

釜石市郊外の、海岸に近い屋敷跡の片付けに行つたときのことです。その奥さんが気を使つて、遠方の仮住まいからわざわざ缶コーヒーや、お菓子を持ってきてくれました。朴訥(ぼくとつ)とした岩手訛で奥さんが話し始めました。「家も会社も流されました」「田んぼも畑も流されました」「飼っていた牛も小屋も流されました」「15年間一緒に暮らしていた犬も流されました」「みんな、みんな流されてしまいました」と、訥訥(とつとつ)とした話に私達8名のボランティアは、奥さんの顔を見ることができず、ときどき意味のない

小さな顔をしなが

を向いて聞いていました。今までのような経験が何度かあり以前は、その都度慰めの言葉をいろいろ考

えました。でも見つかりませんでした。あのような体験をした人達を慰める言葉は私には考えつきません。最近では、無言で話の聞き役に徹することも、時には相手の慰めになると思うことにしています。

奥さんが帰つたあと、5百メートル程先にある津浪を止めることができなかった頑強そうな防潮堤と、鉄製の立派な水門を漠然とした気持ちで眺めていました。気がつくと同様の時雨の影響か、淡い色彩の虹が下がり勾配の先にある防潮堤を中心にして、目線の高さで円を描いています。ぼんやり眺めていると、スーと身体が軽くなったような気が

がしました。落ち込んでいた私達の心を、虹が少しだけ戻してくれたようです。「東北頑張り」のスローガンを巷で良く見かけます。しかし、頑張りつてい姿を喜んでくれる家族が居ない。力を発揮する船が養殖筏が店舗が設備が職場が流されて無い。頑張りつた身体を心底休める家が無い。食事を得るお金が無い。励まし合う友人、同僚も失つて居ない。この様な人達がまだ大勢います。

頑張りつた遠くにいる私達で、復興の為に英知を、費用を、そして現地の活動が必要だと私は考えています。復興ビジョンを考える知恵や、高額の義援金協力を自信がない私から活動が続けようと思つていきます。

作庭塾庭守 活動報告

荒川 昭男

伊勢音頭

年配者の方なら御存知の「伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ」の伊勢音頭。その語源が「石は吊つてもつ、吊つてもつ石は尾張名古屋の城へもつ」であることは案外知られていない。

名古屋築城の際、大量の花崗岩が伊勢から運ばれ、小堀遠州や城石垣の名人加藤清正配下で、「両か

く」と称された飯田覚兵衛や三宅角左衛門等がそれを使い、築城に取り組んだと伝えられている。

その時代石の扱いは、万力取り、セミ吊り、枕渡し、修羅送り等があり、勿論これ等は築城だけに限られたものではなく、庭石や、宝塔等の石造品を扱う手法でもあった。

当時活躍していた石工の集団は、それぞれ得意とする方法で石を運搬したとの

木製回転機の万力は轆轤(ろくろ)のこと。車地(しゃち)、巻胴(まきどう)、神楽算(かぐらさん)、絞車(しぼりぐるま)等とも呼ばれた。

豊臣恩顧の大名であったが、関が原の戦いでは東軍の徳川方につき、姫路52万石の大大名となった池田輝政配下の石垣積師たちは、この万力を使って修羅を引くのを得意としていた



大胡氏より指導を受ける修羅とコクの扱ひ方



トラやおしみを取り踏石に据え付ける



貴人口と躰口を想定し踏石を据え付ける。岸本会長、鈴木相談役と共に記念撮影



玉堂美術館や吉川英治記念館を泉見学後に訪ねた飯能能仁寺、水の庭を拝見しながら一休み



三又を安全且つ素早く移動するための作業。レッカー使用には無い呼吸合わせを学ぶ



三又による景石の据え付け。繊細さが求められる。玉掛けのむずかしさを学ぶ



玉堂美術館にて係員の説明を熱心に聞く

永送り

しい。セミつりは滑車を用いた方法で、現在のチェーンブロックに相当するもの。冒頭の伊勢音頭の「石は吊つてもつ」は、セミつりを指したものと考えられる。

枕渡しは、現代でも山から原木を運び出す際に、林業で行われている方法。多量の木材を筏のように横に敷き、その上に石を乗せ滑らせる方法。枕の滑りを良くするために、ムクゲの葉を煮たてた湯を潤滑液

に敷き、その上に石を乗せ滑らせる方法。枕の滑りを良くするために、ムクゲの葉を煮たてた湯を潤滑液

として用いた地方もあるらしい。ムクゲの葉が持つ脂を利用した先人の知恵である。枕に用いる材質は地方により様々であったらしいが、肥後の石工が活躍した鹿兒島築城の際には、屋久杉が使われたらしい。余談だが、その城造りも、現在の熊本県へ帰る途中、国境(くにさかい)で待ち伏せていた鹿兒島藩主島津の家来たちによって、殺されたといわれている。城郭に関する様々な秘密を知っている者は、生かして帰せないといふことらしい。慈悲のかけらも無い、そのような非道を「永送り」と呼んでいたとのこと。

太い樹木の二股を利用し、先端に大勢の人が引くための太い綱を通す穴が施してある。原形を留めている長さ約12mの大きい方の修羅は、アカガシを用いた復元実験によると40t前後の石を運んでも充分とのこと。

三又

5月22日から始まった新年度の庭守講習会は、石材の古式運搬手法を学ぶというテーマで、別名「さんぞう」「ぼうず」「ちんまた」と呼ばれている三又の扱ひを行った。

途中、庭園見学講習も含めた都合4回の講習も、11月13日をもって無事故、且充実した内容で終了した。ワイヤーロープで三又を組むことから始め、結束された又を立ち上げ、少しずつ開き鬼嚙(おにがみ)を回し、チェーンブロックを下げる作業を一人で行うことに挑戦する。

当時の石工達は、命を掛けて石と向き合う以外にも、命がけの危険が他にもあったということである。修羅送りの修羅は、地方によってスリ、スラ、ズリ、ゾラ、ソリ等と呼ばれ、金比羅フネフネのシュラ、シュ、シュ、シュはこれを指しているという人もいる。昭和53年大藤藤井寺市の三ツ塚古墳周濠底より、大小2基の修羅が発掘された。7世紀ごろ使われていたものらしい。

一昔前なら頻繁に見られた光景が、機械化の進んだ現代では、珍しく又忘れられようとしている。顔を真っ赤にして、満身の力で三又の立ち上げに挑戦する講習生の姿を見ながら、有意義な講習会であったことを実感する。この講習会から、何を会得したかは各自それぞれ異なるかも知れない。しかし、共通して感じられるものもあると思う。それは先人たちが残した知恵ではないか。そしてそ

庭守に参加して

神奈川造園業協会の技師コースで、石材などの授業を受けた時、受講生の我々職人にわかりやすく熱く講義をされていたのが荒川先生でした。その時から、8年、荒川先生が伝統技法、日本の庭造りの文化、その中にある精神を学ぶ。庭守という勉強会を作り参加者を募集しているの聞き、是非勉強させて下さいと2期目より滑り込みで参加できることになりました。初回の集まりでは、職人としての心構えや、技より

いざ勉強会では、一班の渡部講師と二班の川田講師と別れてテーマに沿った別の庭を造ります。二班の私は川田講師から「チャッチャと据えてく」と発破をかけられますが、その「チャッチャ」には講師の方々が経験した多くのものが詰まっており、講師の方々は、その仕上りの風景が見えているのです、その感覚を少しでも盗もうとしておりますが、石を動かすだけで、据える感覚にはほど遠いです。勤めている会社の社長に、モタモタやっているとい

「かせ、俺がやる」と、言葉だけでではなく実際に仕事を覚えて育ててもらいました。当時はお寺さんの本堂の改修に伴う庭の全改修や、個人のお宅で石を入れた庭園を造る仕事など、社長頭の設計図や感覚を察しながらの毎日は無我夢中でした、社長が伝えようとしている事を察することです仕事を体にしみこませました。今、後輩が増え、伝える事の難しさを実感しつつも、後輩と共に勉強の毎日です。人に自分の知識、特に技術を伝えるということは非常に大変で、まして勉強会という大人数、短時間の中で伝えるのは難しいことです、講師の方々は、目で盗み体で覚えてきた事、職人にとっては宝を言葉やホワイボードを使い、実際に技を示し伝えて頂いてます。

庭守という会は、講師の方々の長きに亘り培ってきた伝統ある技術、知識経験、大先輩の知識や経験もあり、若くしてバリバリ仕事をしている方の今の感覚、今勉強されている方の発想などと、さまざまな知識、経験、感覚、発想が集まり、それを体に浸み込ませていく場所となっております。6月の勉強会の後では、会長の荒川講師が東日本大震災の被災地に瓦礫の撤去などボランティア活動をしてこられたお話を聞き、自分には何が出来るのか心揺るがし、感謝いたします。

の知恵は、現代でも決して色褪せてはいないと。万力取り、セミ吊り、枕渡し、修羅送りに宿る先人達の知恵は、飛鳥の石舞台のような、一石が70tにも及ぶ巨大石墳墓の構築を果たし、広大な城郭に敵をよせつけぬ、しかも優美な稜線をともなった石垣を積み上げ、決して崩れ落ちることのない、強固な石橋を架け、恐ろしいほどの力を持つ水に立ち向かう不動の護岸を築き、数百年の長きに渡って人々に感銘を与え続ける石組を庭園に残した。日常の仕事で経験することが困難な、先人達の知恵から生まれた技能の一端を、講習という形ではあるにせよ、庭守で行うことが出来たことは幸いと思っています。

もまず人としての礼儀、頭を垂れ教えを乞う事の謙虚な気持ちをもつことの大切さなど、初心に戻る打合せからスタートになりました。その時から早くも3年目になります、毎回前日の夜から緊張します。何百年も経て当時の職人達が触れてきたであろう貴重な石材に触れる事の出来ることの高揚感と怖さ。一日かけ造りあげた風景はその日のうちに無くなる、石を据えている作業の感覚の一つ一つは一瞬の連続で、二度と同じ事は経験出来ない事を想像してしまふからです。講師の方々が勉強会の前々から、休日返上で検討を重ね準備して下さった正しく本物の石材をトラック山盛りに積み込んで会場に現れる時は緊張感のピークに。

「かせ、俺がやる」と、言葉だけでではなく実際に仕事を覚えて育ててもらいました。当時はお寺さんの本堂の改修に伴う庭の全改修や、個人のお宅で石を入れた庭園を造る仕事など、社長頭の設計図や感覚を察しながらの毎日は無我夢中でした、社長が伝えようとしている事を察することです仕事を体にしみこませました。今、後輩が増え、伝える事の難しさを実感しつつも、後輩と共に勉強の毎日です。人に自分の知識、特に技術を伝えるということは非常に大変で、まして勉強会という大人数、短時間の中で伝えるのは難しいことです、講師の方々は、目で盗み体で覚えてきた事、職人にとっては宝を言葉やホワイボードを使い、実際に技を示し伝えて頂いてます。

庭守では自分が経験した事のない内容ばかりでした。当初は、頭で考えれば手足が止まり、体を動かせば上手く収まらない。講師の方々の話を聞くのが一杯でした。講習の回数を重ねるごとに、少しずつではありますが、場の雰囲気・石の扱ひなど体で感じる事が出来るようになってきたと思います。庭園見学では、講師の方々ははじめ大勢の庭守メンバーと回る事で自分では気付けない事に気付く、感じる事が出来、とても勉強になりました。基本が出来ていなければ良い仕事はできませんと思います。庭作りに正解はないと言いますが、庭守で勉強した事を生かす、経験を活かす、これからの仕事に取り組みしていきたいと思っております。講師の皆様をはじめ、庭守に関わるすべての皆様にご

(旬) シムラ 吉村 操

●会員名簿の変更● (平成23年度名簿)

新入会員

- 金沢・磯子支部
福利園建設(株) 代表者 福島 康人
〒239-0844 横須賀市岩戸3-27-35
Tel 046-849-2283 Fax 046-849-2284
- 横須賀支部
有すすひで 代表者 鈴木 英雄
〒239-0831 横須賀市久里浜4-3-6
Tel 046-835-7072 Fax 046-833-7841
- 横須賀支部
株わとう園 代表者 渡辺 真紀
〒239-0844 横須賀市岩戸3-27-25
Tel 046-848-9225 Fax 046-839-2980
- 湘南中央支部
有松本造園土木 代表者 松本 学
〒251-0862 藤沢市稲荷327
Tel 0466-81-9563 Fax 0466-81-9563
- 湘南中央支部
株グリーンテック 代表者 松本 博夫
〒252-0824 藤沢市打戻1833
Tel 0466-48-0026 Fax 0466-48-0029

代表者変更

- 賛助会員
横浜日野自動車(株) (会員名簿P.74)
代表者 茂中 淳二 → 小林 章二

名簿の訂正をお願いします

- 県央支部
鈴木造園土木(株) (会員名簿P.67)
代表者 鈴木 俊男 → 鈴木 俊雄



平素より古川元副会長と懇意の深い方々が一堂に会して氏の栄誉に敬意を表し、さらなる御活躍を祈念し「黄綬褒章受章を祝う会」が平成二十三年十一月二十三日セントラルホテルに於いて開催されました。

祝賀会は柳井三枝子司会のもと、小山神造協副会長の開会のことば、岸本会長による発起人代表挨拶が行われた後に、



古川香氏の黄綬褒章受章を祝う会開催される

平成二十三年春の褒章に際しまして神奈川県造園業協会古川香元副会長が多年に亘り協会業務に精励され、業界及び協会の発展に多大な貢献をされると共に地域振興に寄与された功績により黄綬褒章受章の栄誉に浴されました。

古川元副会長のプロフィールがご紹介され、引き続き公務多忙の中出席して頂いた小泉衆議院議員、古尾谷神奈川県副知事、吉田横須賀市長、持田神奈川県議会議長、松田神奈川県議会みどり議員連盟会長、木村建設業労働災害防止協会神奈川県支部顧問より心温かい来賓祝辞を賜り、古川元副会長より受章者謝辞が行われました。また、黒川友子小・中学校同級生、吉田智宏中学同級生からご夫妻に花束贈呈がなされ、神造協高橋副会長の閉会の辞により式典が終了しました。祝宴は長谷川横須賀緑化造園業協会理事長の開会挨拶の後賑やかに鏡開きが行われ、鈴木財団法人横須賀都市施設公社理事長の乾杯の御発声の後、祝電披露、

懇談となり、アトラクションには、高山典子・遠藤百合のお二人のヴァイオリン演奏が披露され楽しい祝宴となりました。

吉倉横須賀造園業組合長のの中締めにより会は終了となりました。ご列席の皆様有難うございました。



事務局情報

(月間行事一覧)
●諸会議その他●

12/3 (土)	造園技能士コース (第8回)
12/6 (火)	公園緑地部会正副部会長・正副委員長会
12/6 (火)	情報委員会
12/9 (金)	公園緑地部会
12/10 (土)	造園技能士コース (第9回)
12/12 (月)	県域青年部会
12/16 (金)	神奈川県労働局労働保険事務組合監査
12/21 (水)	造園技能士コース 神奈川県事務執行状況調査
1/5 (木)	御用始め 新年造園人の集い (品川プリンスホテルアネックスタワー)
1/6 (金)	神奈川県建設業関連6団体合同賀詞交換会 (横浜ロイヤルパークホテル)
1/6 (金)	横浜市造園協会「新年賀詞交換会」 (ホテル横浜ガーデン)
1/7 (土)	造園技能士コース (第10回)
1/10 (火)	神奈川県造園人賀詞交換会 (ロイヤルホールヨコハマ)
1/14 (土)	造園技能士コース (第11回)
1/20 (金)	造園技能士コース問題作成会議
1/21 (土)	造園技能士コース (第12回)
1/27 (金)	第2回病害虫防除講習会 (神奈川県農業技術センター)
1/28 (土)	造園技能士コース (第13回)

表彰コーナー

- 厚生労働大臣表彰**
卓越技能者
大胡周一郎 植周造園(株)
- 神奈川県**
優秀技能者
瀧川助夫 瀧川造園
原田嘉幸 (有)実生園
青年優秀技能者
片倉広祐 内山造園(株)
瀧川佳広 (株)瀧川園
- 横浜市**
技能功労者
福田登喜三 (有)福田園
北村 裕 (株)きたむら園
杉本 薫 (株)杉本造園
高橋正義 (有)高橋園
優秀技能者
小山田照蔵 一造園土木(株)
長岡孝信 (株)並木園
- 川崎市**
技能功労者
大澤正彦南武造園建設(株)
優秀技能者
野村二三男 野村造園(有)
大木昭次 (株)山ノ井造園
樋山博幸 樋山園
- 小島貴洋 小島造園(株)
山田俊夫 (有)山田造園
横浜市優良工事表彰
・優良工事請負業者表彰
株式会社エムテック
グリーン
小島造園株式会社
株式会社誠和緑化
横浜庭苑株式会社
奈良造園土木株式会社
・優良工事表彰技術者
阿部純栄 横浜庭苑(株)
網本 薫 横浜緑地(株)
石田力也 (株)誠和緑化
佐藤幸樹 (株)佐藤造園
- 吉垣智士 (有)吉垣緑地施設
中央職業能力開発協会
会長賞
高橋克明 植春造園(株)
- 神奈川県職業能力開発協会
技能検定功労者
検定員
神之園文男 (有)神之園
安藤忠男 安藤植木(株)
検定補佐員
柏木武司 柏木園芸
川崎安男 川崎造園
西形達雄 西形造園



支部だより

横浜南支部研修会 情報委員 岡本 勝正

前回に引き続き、八月十四日に第2回目の研修会が行われた。前回は延段およびその洗い出し施工の研修を行った。講師は横浜南支部支部長の金子篤司氏が務めた。

今回は秋の立会垣の下拵えを黒竹と黒穂の代替の材料を用いて行った。これ

は材料の秋が特注品のためであるとのこと。袖垣の寸法は間口1尺1寸、高さ5尺5寸。黒竹(3分)6本を一組にして束ね二十番と十八番の銅の針金で結束する。このとき断面は円形であることが望ましく、後の仕上がりには違いが生じる。さらに、この結束した黒竹に黒穂を挿し込む。

黒竹全体の長さの6割位から挿し込んで、元より末に向かって軽く広がるように挿し込むと仕上がりが良い。黒穂の挿し込み口が

目立たないように挿し重ねると仕上がりが良いことなど、講師の細々とした助言や指導の下に参加者は熱心に作業を進めた。

すでに、講師による秋の立会垣は完成しており、これは次回の研修会に実際に使われるもので、参加者はこれを手本として下拵えを行った。

假初の格子門、のぞけば鞍馬の石燈籠に秋の袖垣しをらしう見えて…

樋口一葉の「たけくらべ」の一節である。ここに書かれている秋の袖垣が立会垣かどうかは定かではないが、以前はよく作られていたようである。建築様式の

変化や採取地である原野の減少により次第に作られることが減ったようである。

昼食後はチャボヒバの剪定における注意点、質疑応答など終えた後、猛暑の夏を快適に過ごすクールミストの設置ノウハウを金子支部長に、太陽光発電の講義を高橋幸雄氏にお願いした。太陽光発電は次回に置き、燈籠の寸松庵の光源であるLEDライトを点灯させる電源となる。

クールミストは水を微細な霧状に噴霧して、その気加熱によって周囲の気温を下げて快適性を高める装置として最近特に注目されているものである。水道の蛇

口に直結でき、フィルターなどを介さないため、手軽に設置が可能であることが最大のメリットであることなど説明を受けた。

しかし風向きや強風時などに効果にムラの出る要素があり、その点を考慮に入れて導入する必要があるなどの点も課題として説明を受けた。

太陽光発電では、使用する目的や器具や機械の消費電力によって発電パネルの設置面積を決めることが現時点では必要であること。昼間発電した電気をバッテリーなどに充電して夜間に使うなど工夫が必要であること。

使用機器を限定して考えること。天候による発電ムラが生じることを承知しておくこと。発電量を欲張らないこと。発電や充電に伴う屋内外の配線などの初期投資が生じること。以上のことを考慮して設置して検討することなど細部にわたって丁寧な説明を受けた。質疑応答の後、第二回目の研修会を終了した。

九月十一日に第三回目の研修会がおこなわれた。過去二回の研修会での成果が今回実際の形となって表れるのである。研修に当たって設定した立地、面積、素材を以下に記す。

玄関より背戸に通じる間口九尺、奥行き三間の約4坪半。手前九尺は掃き出しの和室、奥九尺は水屋の設定。

マモミジ1本、ヤマブドウ(壁面)、シロヤマブキ1株、タマイブキ1株、シモツケ、ハラン、ススキ、ワレモコウ、その他太陽光発電とクールミストの設置。植え込み用土としてチップ堆肥を使用した。

これらの材料で設定された面積にいかにか創造的に各材料を配置するか、参加者によってそれぞれのレイアウトが頭の中にイメージしているものを、実際にそれぞれを配置し据えていった。配置や高さの違いにより面積を感じさせない広がりや奥行きが表現されることや、角度や向きの違いによ

る遠近感の変化など様々な組み合わせによって実感できた。

昼食後は講師による過去二回を含めて全体の講評、質疑応答など活発に行われた。さらに日本文化を見直す意味で、手拭についての話で研修会は終了した。

最後に研修会の場所の提供や材料の提供、講師をして戴いた金子支部長、昼食やお茶をお世話くださったご家族の方々、事前準備などお手伝いを戴いた横浜南支部青年部の皆さんありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。



立会垣下拵え3



四ツ目垣飾り結び



立会垣下拵え完了



四ツ目垣飾り結び2



延段準備



立会垣下拵え



作業完了



立会垣下拵え2



寸松庵



植栽作業



立会垣



寸松庵配線

● 特別名勝「六義園」



去る十月二十一日(金)に隣接する2支部に呼びかけて、標記の研修会を日帰りにて実施したが、当支部は青年部を合わせて十名、港北より七名、鶴見より二名の参加を得、十九名での催行となった。

当日は、どんよりとした曇り日で、雨具の用意が無駄になった程の多少蒸し暑くも感ずる秋の陽気であった。

庭園めぐりは、当然ながら小型バスを駆つての団体行動であったが都内の渋滞もほとんど無く、東京都が管理する4ヶ所の有名な庭園(特別名勝「六義園」、

「東京庭園めぐり」
 研修会記
 神奈川県支部 情報委員
 篠原 英夫

● 名勝「旧古河庭園」



名勝「旧古河庭園」、国指定名勝史跡「向島百花園」そして都指定名勝「清澄庭園」を各1時間余をかけて適宜、港北支部の川田社長長の講義を拝聴しながら研修した。

最初に訪れた「六義園」は4庭園の中で最大であり、後の3ヶ所の研修先のことを考え多少駆け足気味にはなったが、都内にいながらにして過去の江戸・元

緑期の大名庭園に思いを馳せ、閑静で素晴らしい時を過ごせたがここにも東北大地震の影響で、池中の蓬莱島の松が消失し、臥龍石が水没したとの事、誠に残念に思う。

次の「旧古河庭園」は「六義園」からも程近く、武蔵野台地を生かした高台に大正期の洋館を今や真つ盛り

その先の低地には京都の庭師、小川治兵衛こと植治の作になる日本庭園(池泉回遊式庭園)が配されており、和洋が織り成す素晴らしい庭園であった。

次に3ヶ所目となる「向島百花園」へ移動し、園内の「御成座敷」にて昼膳を囲んだが、座敷回り廊下より「東京スカイツリー」が真近に見え、近頃はこれも座敷の売りとの事。江戸時代の文人墨客は如何思うだろうか想像するだに楽しくなる。ウメと四季の山野草を配した江戸時代の花園はハギが終わり、色彩りは少ないが親しみのある都民憩いの園であると言える。

最後に「清澄庭園」(この庭園の原型となる「回遊式林泉庭園」は明治期に創られた)を訪れたが、規模も「六義園」に近く、当時の三菱の財力を物語る奇岩名石を配した池泉には圧倒されるものがある。

● 都指定名勝「清澄庭園」



● 国指定名勝史跡「向島百花園」



なお、ここでは震災被害の池泉内松島の雪見灯籠と多宝塔の復旧が試みられていた。

総評として前述しているとおり、4庭園全てが東京都管理になるものであり、その全てで指定管理者として公益財団法人東京都公園協会文化財庭園課が関与しており、又それぞれで庭園毎にサービスセンターが常駐管理している。セミプロの目から見てもシステムの向上に機能していると思

うし、勉強にもなった。なお今回の合同研修は今後も部会と支部、支部間等お互いを補いつつ、協力しあつてテーマ毎に研修するというのは、時代の要請にも適っているものであり、帰りの車中では今後の協力を約し色々な意味で有意義な研修になったと思えます。

最後にこの企画に御尽力された幹事長と青年部に感謝申し上げます。

ご婚礼・ご宴会・ご宿泊・レストラン

皆様のご宴会、お集り、会議にご利用ください。心を込めたサービスで、お手伝いいたします。

ご婚礼
 お二人の愛を誓う厳粛なご婚礼セレモニー。そして幸せなお二人の門出を祝うご披露宴を素敵に演出いたします。お二人らしいオリジナルウェディングを…

レストラン
 中国料理「上海酒家」、西洋料理「ヴァンセーヌ」のシェフが腕によりをかけた料理をご賞味ください。

ご宴会
 祝賀会、歓送迎会、同窓会、各種パーティーなど、ご人数や用途に合わせてご利用いただけるバンケットルームや、ミーティングルームをご用意しております。

ご宿泊
 アクセスマも良く、快適なご宿泊を。

ホテル横浜ガーデン
 〒231-0023 横浜市中区山下町254
 TEL.045-641-1466 (ダイヤルイン)
 JR関内駅南口横浜スタジアム隣り